

## 東条川用水はここからはじまった

# 昭和池

北播磨地域はもともと雨が少なく、河川の利水も制限されていたため、水源の多くをため池に頼る地域でした。昭和池の受益地には築造前に約110個のため池がありましたが、それでも必要水量の1/3程度しか賄うことができず、降雨や河川水の多少に左右され農業基盤は非常に危ういものでした。1924年(大正13年)の干ばつを契機に用水源確立を求める動きが活発化し、国費50%の補助を受けた「三草山溜池用排水幹線改良事業」として1928年(昭和3年)に昭和池築造が始まり、1933年(昭和8年)に完成しました。

場所は集水面積が大きく複雑な水利慣行もない三草川に決め、三草山溪谷に土堰堤を築き引水路でトヤ谷、御所ヶ谷の水を集め2溪谷で計701haにもなる集水面積を確保しました。また、ため池の用水を導く幹線水路は加東市藤田で逆サイフォンにより千鳥川を嬉野に渡りました。

その後、1957年(昭和32年)に嬉野線が完成したことに伴い千鳥川左岸については鴨川ダムより送水されることになり、現在は曾我、北野、河高、上三草、木梨など千鳥川右岸地域に送水されています。



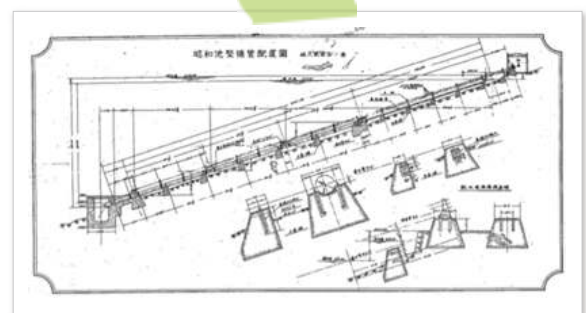
あたりは静かで、天気の良い日には水面と山と空のコントラストが美しく、すばらしい景観です。



着手前の昭和池付近の様子



堤体の基礎工事の様子



取水樋(溜池から取水する部分)の設計図面